

第2章 農業の概況

「イ」国の地勢・気候は極めて変化に富むため、穀類の他、多様な野菜、果樹等の栽培が可能である。紅海沿岸に位置するティハマ平原と南部の海岸平坦地は熱帯に属し、年平均気温は32 であるが、気温の年格差が大きい。湿度は高いが、年平均雨量は100mm程度で、熱帯とはいえ降雨量はそれほど多くない。ティハマ平原の中心都市ホデイダ付近は国内でも有数の穀類、野菜、果樹生産地帯である。

図2-1に「イ」国の標高図を示す。ティハマ平原の東側は丘陵・山岳地帯に接し、標高200mから1,500mまで西部丘陵地帯、そして標高1,500mを超える中央高原地帯（首都サナアは標高2,300m）と続く。これらの地帯は熱帯・亜熱帯及び温帯に属し、年間降雨量は300mmから1,200mm程度と比較的多く、サナア付近も主要な穀類、野菜、果樹生産地帯となっている。

一方、東部は緩やかな傾斜の北東部・東部砂漠高原地帯で、年間降雨量60mmから200mm程度の乾燥地帯である。

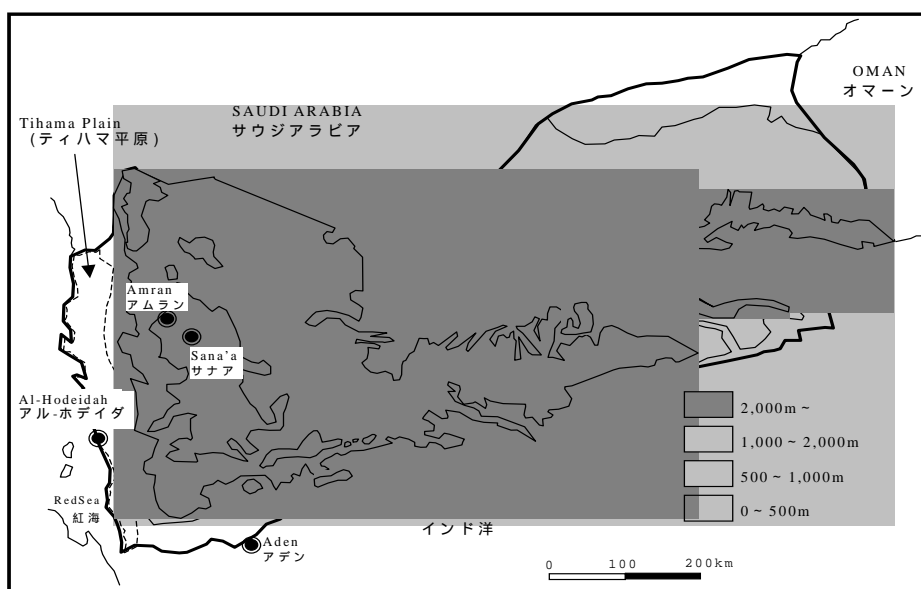


図2-1 標高図

「イ」国は西部丘陵地帯、中央高原地帯の一部を除き基本的に乾燥地帯であり、農業は自然降雨に大きく依存している。そのため1986年にマリブ (Ma'rib) に完成したダムにより、「イ」国政府はティハマ地域で灌漑事業を実施するとともに、ワジ (涸れ川) に小規模ダムを構築するなど灌漑システムの改善や拡充を図っている。このため多くの農場もワジの周辺に位置する傾向がある。

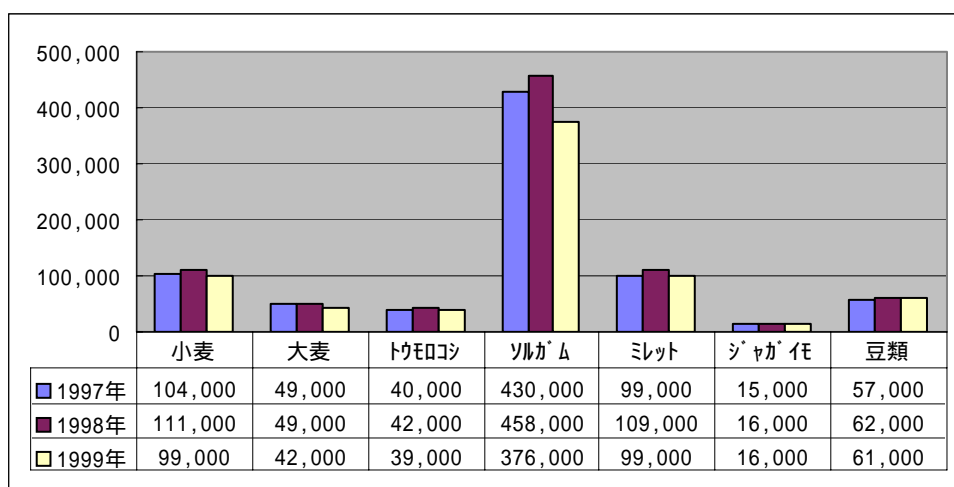
「イ」国は全般的に乾燥気候であるが、中央高原地帯の年間降水量は800mm以上になることもある。そのため、高原地帯から低地に流れる雨水が洪水となり、低地の農地に毎年甚大な被害を与えている。このため「イ」国では、農地の保全を目的として、ブルドーザ等の建設機械を利用し、ワジに堆積した土砂を浚渫し

洪水の水路を確保する作業が必要となっている。

「イ」国における主食は小麦であり、ホッピィ（同国独特の薄焼きパン）の主原料である。大麦、トウモロコシ、ソルガム、ミレット及びジャガイモも準主食として食されている。また、ソルガム、ミレットは青刈りで畜産飼料として山羊、鶏、牛等の蛋白源ともなっている。表2-1に主要作物の栽培面積、表2-2に主要作物の単位面積当たりの収量（以下、単収とする）、表2-3に主要作物の生産量を示す。ほぼすべての主要作物につき、1998年から1999年にかけて生産量が減少した。これは近東一帯を襲った旱魃の影響により、栽培面積及び単収ともに減少したためである。

表2-1 主要作物の栽培面積

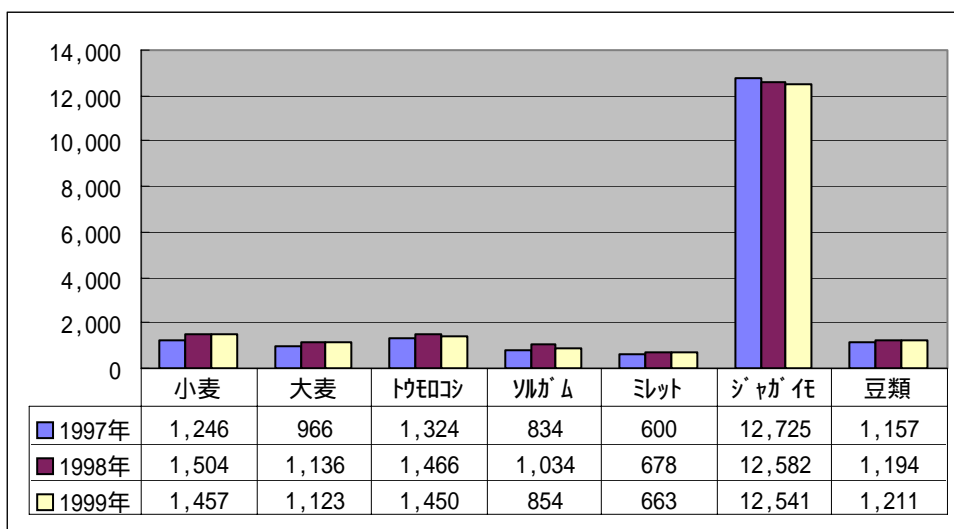
（単位：ha）



（出典：FAO Production Yearbook 1999）

表2-2 主要作物の単収

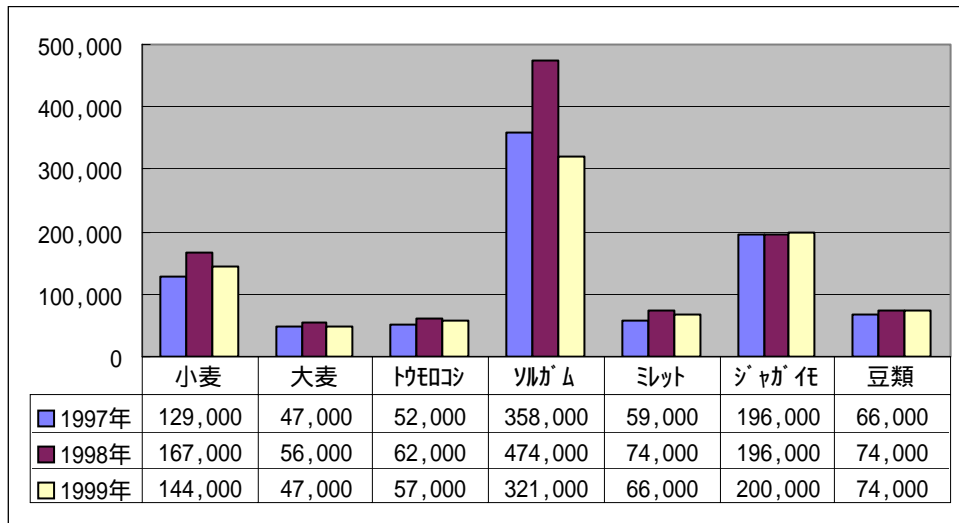
（単位：kg/ha）



（出典：FAO Production Yearbook 1999）

表2-3 主要作物の生産量

(単位：t)



(出典：FAO Production Yearbook 1999)

表2-4に主要作物の需給状況を示す。商業ベースで輸入されているのが小麦、トウモロコシ及び豆類である。特に主要作物の小麦は国内需要の約90%を輸入に依存しており、生産量の増加は急務である。また、トウモロコシは国内需要の約60%を、豆類は国内需要の約20%を輸入に依存している。ジャガイモは国内需要を国内生産で賄っているが、今後の需要拡大及び大規模な旱魃発生の可能性等を考慮すれば、まだ安定した生産量を確保しているとはいえない。

表2-4 主要作物の需給状況(1999年)

(単位：t)

作物名	期首在庫	生産量	輸入		国内需要	輸出	バランス
			援助	商業			
小麦	0	139,563	0	1,186,614	1,226,140	27	100,010
トウモロコシ	0	47,077	0	159,569	206,646	0	0
豆類	0	63,633	0	23,520	87,074	79	0
ジャガイモ	0	211,121	0	0	205,541	580	5,000

(出典：要請関連資料)